

● 学会発表の内容

卵巣予備能低下症（ART不成功例）におけるDHEAの有効性について

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
渋谷 智子 伊藤 真理 藤澤 弘子 清須 知栄子 徐 東舜

■【目的】

Dehydroepiandrosterone (DHEA) はダイエットやアンチエイジングのサプリメントとして知られているが、卵巣に作用して機能の活性化が報告されている。そこで今回我々は、卵巣予備能が低下しARTの成績が不十分であった症例にDHEAを投与し効果を検討した。

■【対象】

卵巣予備能低下でARTでの妊娠に至らなかった22症例（平均年齢：37.3 ± 2.9 歳、既往採卵回数：3.3 ± 4.2回）とした。

■【方法】

次回採卵までにDHEA 50 mg/日又は75 mg/日を60日以上連日投与した。調節卵巣刺激はいずれもhMG-hCG-アントゴニスト法を行い、IVFかICSIを実施した。投与前後での月経3日目のホルモン値（FSH、E2、テストステロン）の変化と体外受精での成績を比較検討した。

■【結果】

月経3日目のホルモン値は、FSHが有意ではないが投与後低下傾向を示し、テストステロン（21.9 ± 11.9 ng/dl VS 58.2 ± 24.0 ng/dl ; P<0.01）は有意に上昇した。体外受精の成績を投与前後で比較したところ、採卵数、受精数、Day3胚での平均分割率は有意ではないが増加した。また、DHEA投与前後の体外受精で得られた胚の移植当たりの妊娠率は（0.0% VS 30.0% ; P<0.01）と有意に上昇した。さらに胚の発育不良や未受精などによる治療中途のキャンセル率は（40.9% VS 4.6% ; P<0.01）と有意に減少した。

■【結語】

以上より、DHEAは卵巣予備能が低下した症例に対しての機能改善や卵子の質改善に有効である事が示唆された。